



山梨岳連報

第 96 号(不定期)
2022(令和 4)年 9 月 1 日
発行 山梨県山岳連盟
編集 広報委員会
(甲府市湯田)

小宮山 稔 会長のあいさつ

ここ数年、コロナ禍によりレインジャー活動などの公益的な事業を除き、自主的な講習会や登山教室などの活動が行えなかったことについて、大変申し訳なく思っています。今年もコロナウィルス変異株の影響により、再び感染症が広がっています。しかし、8月11日「山の日」関連イベントとしての家族登山を実施するとともに、今後の総合研修会や冬山登山教室等についても、感染予防対策に十分配慮し開催したいと考えています。



また、山梨県警、ガイド協会、ヤマレコ、味の素との間で「山梨県の安全登山」に関する協定を結び、安全登山に対する取り組みや、JIMSCA の補助を得て三富山岳救助隊とともに乾徳山における道迷い防止事業にも取り組みます。

今秋には、関東小中学生選抜クライミング大会を小瀬で開催します。法人化についてもそろそろ結論を出す必要もあります。取り組むべき課題は沢山ありますが皆さんの協力で連盟活動を盛り上げていただければと思います。

定期総会の開催と今年度の主な事業

2022(令和 4)年 5 月 14 日(土)に甲府市総合市民会館において定期総会を開催しました。昨年に役員改選が行われており、本年はそれから 1 年のみの経過ですが、5 月の定期総会において新たに石原佳典氏をスポーツクライミング担当の副理事長に選任させていただきました。

スポーツクライミングはオリンピック競技となって注目度は高まっており、競技場のコロナ対策もあって、競技会の開催は昔に比べて手順が多くなるなどたいへんになっています。こうした中、今年度は関東小中学生選抜スポーツクライミング大会、再来年には国体関東ブロック大会の実施が県内で控えており、とても重要な時期になっています。

本連盟の取り扱い事項には、登山に関する山岳という部門とスポーツクライミングに関する部門の大きく二つがあります。よく例えられるのが車の両輪です。競技団体というような言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、本連盟はスポーツクライミングに関する競技団体です。難しい言葉で「ガバナンスコード」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは競技団体が正しく運営されているかどうかということ自らチェックしそれを公表するということで、スポーツ庁が指導をして試験的には今年度ぐらいから行うものです。

このように競技団体は、国体や選手強化などいくつかの事業をするとともに、自分たちの運営についてもしっかり管理していかなければなりません。石原氏は、このように重要な部門を担っていくことになりませんが、岳連の他の役員や加盟の各山岳会の方々も是非ともスポーツクライミングに対するご理解、ご協力をお願いします。

スポーツクライミングについても一つ。まだ正式には決定していませんが、10 年後に国体本大会を山梨県で行うという動きがあるため、県もジュニアアスリート・トータルサポート事業という補助金を充実させて、10 年後の選手育成を強化しています。このような状況を見越し中島スポーツクライミング委員長は、積極的にジュニアアスリートを育成する事業を今年度新たに実施しています。

新たにキッズ部門を導入した 4 月の山梨カップ大会、6 月にはビレイ講習会やリード合同練習会、更には 8 月からの県内クライミングジムでのシリーズ戦など、いくつかの事業を企画し補助金を受けて実施しています。

選手や役員を育てることは、重要でたいへんな仕事であり、すぐに効果は出ませんが、これについても皆さま方のご理解とご協力をお願いします。

山岳部門については、例年のとおり山岳レインジャー活動や甲府市の山の日事業などへの協力を予定していますが、遭難対策委員会では乾徳山を舞台に道迷い遭難を減らすための取り組みを開始したところでもあります。また、6～10 月に岳連有志により広河原と芦安において登山者指導・案内を行っており、これについても連盟法人化を含めた検討を行っていく必要があります。

依然として新型コロナが流行しており、苦しみながら進むこととなりますが、今年度もよろしく願います。(理事長 望月)

※本紙上「新型コロナウイルス感染症」を「新型コロナ」、「新型コロナウイルス」などと略している場合あり。

スポーツクライミング山梨カップ開催 (兼国民体育大会山梨県代表選手選考会)

2022年4月23日に山梨市のクライミングジム
Activ-Aにて開催されました。

クラスは(一般男子・一般女子・キッズ男子・キッズ女子)の4カテゴリーにて行われ、競技形式は「ボルダリング4課題のベルトコンベア方式」及び「リードオンサイト1本」の2種目により実施しました。

リード競技とボルダリング競技の2種目であったので、普段ボルダリング中心としている選手の中にはクリップ動作がぎこちない選手も見られました。

参加選手の内訳は、キッズ4名、一般12名の合計16名の選手が参加、熱戦が繰り広げられました。

コロナ禍での開催であったので、感染対策には十分留意しましたが、選手、競技役員、保護者等に対しては不自由・不便をおかけしました。

また、競技役員については、必要最小限での実施となったため、一人で2役こなしていただく役員もあり、非常に負担を強いられた中での開催となりましたが、大きな混乱やけが人もなく無事終了しました。

今回はジュニアの成長が目覚ましく見受けられ、今後の活躍がたのしみです。国民体育大会山梨県代表選手に選考された選手は、関東ブロック大会や本大会での活躍を期待します。

<代表選考会結果>

成年男子優勝 : 小林 信哉
成年女子優勝 : 戸田 萌希
キッズ男子優勝 : 手塚 凜空
キッズ女子優勝 : 勝俣 香乃
(SC委員会 矢花)



第77回国体関東ブロック大会(東京都)の状況

2022年7月30日(土)、31日(日)に東京都東久留米市 東京ドームスポーツセンター東久留米において行われました。

コロナ禍の中、体調不良による棄権や選手交代をすることなく、代表選手は大会に参加できました。少年男子・少年女子の2チームは関東のレベルの高さを目の当たりにすることになりました。その中で少年女子 常盤選手のボルダリング競技での見事な完登は、これからの可能性を感じさせてくれました。成年女子は惜しくも関東予選の通過とはなりませんでした。

全チームに言えることはリード力の低さであり、練習の機会の提供や選手強化の体制づくりが急務だと感じました。

<監督・選手及び成績>

成年女子 (参加7チーム)

監督 末永あとり 選手 戸田萌希、宮下 涼
リード4位 ボルダリング5位 総合4位

少年男子 (参加6チーム)

監督 榎林秀倫 選手 野中健生、花田 零
リード5位タイ ボルダリング6位 総合5位タイ

少年女子 (参加7チーム)

監督 渡辺真二郎 選手 三枝柚葉、常盤綾花
リード7位 ボルダリング7位 総合7位

[派遣審判員] 石原佳典、中島陽子
(SC委員長 中島)

クライミング体験会 2022

昨年、岳連会員を対象に開催したクライミング体験会が思いのほか好評で本年度も開催してほしいという要望があり、4月にリニューアルオープンした小瀬クライミング場で2022年5月22日(日)に開催しました。今回は午前、午後の2部制で開催し、それぞれ10名の参加者で実施しました。初めは室内壁のトプロープより始め、慣れてきたら、屋外12mスケール



ールの壁をトプロープで挑戦してもらいました。屋外の壁で一番やさしいグレードは5.10aですが、正直完登できる人はいないと思っていました。ところが蓋を開けてみると、午前、午後ともに何人も完登してしまい予想外でした。リードにも挑戦する人、室内オートビレイ器を使って熱心に登

る人、積極的な参加者が多く、大いに盛り上がりました。(副理事長 SC担当 石原)

リード合同練習会とビレイ講習会

2022年6月26日、小瀬スポーツ公園クライミング場において、リード練習会およびビレイ講習会を開催しました。リード練習会には神奈川県からも小中学生が参加してくれ、7名の小中高生が集まりました。ビレイ講習会には大学生や普段はバリバリにボルダリングをしている社会人など9名の参加でした。

リード練習会は、小瀬のクライミング場が4月にリニューアルオープンしたばかりということもあり、参加者にとってほとんどのルートに登ったことも登りも見ただけという状態だったので、各々自主性に任せて登りたいルートを自由に登ってもらいました。キッズやジュニア用のコンペルートではなくて、大人の利用



を想定したルートだったので小学生には遠くて苦勞するシーンも多々ありましたが、身長を言い訳にせず、どの子も果敢に挑戦する姿がとても印象的でした。

ビレイ講習会の方も先月初めてクライミングを体験した大学生、ボルダラーだけどリードにも興味のある社会人の方々が参加し、座学から実技まで熱心に取り組んでくれました。リードクライミングを楽しむには安全なビレイ技術は不可欠なので今回の講習会での学びを実戦で何度も繰り返して適切なビレイ技術をぜひ習得して欲しいと思います。

(副理事長 SC 担当 石原)

自然保護委員会の活動報告

令和 2, 3 年、コロナ禍の入山規制により、高山帯では二ホンジカの食害で高山植物が大きな打撃を受けた。この状態を放置すると、貴重な植生が元に戻らなくなるため、7 月 12 日委員会として県自然共生推進課へ現状の報告と保護対策の方法などを提案した。また、来年度に向け防鹿柵の早期設置による植生復活事業を環境省とともに実施していただけるよう依頼した。

6 月の三ツ峠学習会には 30 名が参加。三ツ峠山荘の中村氏から高山植物の貴重な話を聞き、観察・保護活動を行った。

今年のレインジャー活動(高山植物調査)は、天候不順のため日程変更の報告が複数寄せられた。一部の業務が不能となったが、別の担当者により実施した。残りの期間、各会との連絡を密にする中で、業務を滞りなく実施し高山植物保護に努めたい。

また、天候不順により事故も発生したが、荒天時は無理をせず、登山の行動基本に戻り、レインジャー活動の実施をお願いします。

(自然保護委員長 中川)

指導員資格の状況 指導委員会

今春、本岳連内の有資格者名簿を作成した。有資格者の構成は、年齢を縦軸にすると頭の大きな菱形に近い形であった。今年、山梨県をはじめ9県で JSPO 公認スポーツクライミングコーチ1(以下 SC1)養成講習会が開催される。県内でも若手の SC1 は増えつつあるが、もうひとつの資格である山岳コー

チ(以下 AC1・AC2)は、50 歳以下のメンバーが少ない。

AC1・AC2の受験資格には、①年齢満 20(AC2 は 25)歳以上、②無雪期登山経験 5 年(共通)以上、③11～5 月の雪山登山経験 3 年以上(AC2 は、12～3 月の三千 m 以上の積雪期登山経験 3 年以上 + 無雪期に 4 級以上の岩場をリード可)、以下共通で④リーダーの実績 3 年以上、⑤知徳円満にして指導者としての活動意思のあるもので岳連に所属し、連盟が認めるもの、AC2のみ指導能力が全国レベルに達したと岳連会長がみとめたものといった条件が並んでいる。

コーチ資格取得意向の有無は別にして、活動歴的にこれらの条件を満たす人は、各会にどれくらいいるのだろうか。何もしなければ、年齢構成の菱形がやせ細っていくだけとなる。掛け声としては、『〇月例山行や合宿を企画して山に行こう、〇後輩を連れ歩こう、〇後輩について歩こう、〇岩場にも行こう、〇冬山も行こう、〇3～5年かけて冬の白根三山を歩けるリーダーを育てよう!』というところか。コロナ禍だが、相談して山行の計画を立てて、今後に備えることはできるだろう。指導委員会への企画提案も募集中である。(指導委員長 辻)

減遭難の取り組み 遭難対策委員会

JMSCA は、2019 年から 山から遭難事故を減らそう!!「ストップ・ザ・1000」キャンペーンを始めた。現在の遭難者総数 3,000 人以上を 90 年代の 1,000 人台に戻そう、という取り組みである。

これを受け道迷い遭難が多数を占めるということで、大阪 金剛山や兵庫 六甲山で JMSCA 遭難対策委員会と府県岳連が、2020 年から道迷い対策の活動を始めた。

こうした中 21 年に東京 川苔山での活動も始まり、いずれ山梨も活動を依頼される事が想定されるので、対象山城や対象遭難の調査・候補地選定に関する検討を始めた。今年度(22 年)に入り JMSCA 遭難対策委員会から本岳連遭対委員会に依頼があったことから、現地調査などに着手した。

調査の対象は、山梨県警 HP の山岳遭難発生状況をデータ化し、道迷い件数・概要欄等の情報から、実施対象は乾徳山に決定。この山は、初心者・家族連れとの比率が多く、また勝手につけられた道が多く、迷いやすい。さらに、他の初心者向き山城と比較して、行程が長く、山小屋等の救助要請やアドバイスが出来るポイントが無い。

関係先である地元遭対協・県警・市役所・県・環境省との協議や協力体制の構築が進んでおり、本年の秋には道迷いが想定されるポイントに、道標等を設置していく方向で活動している。

(遭難対策委員長 安藤)

2022 年海外登山 観花隊その後

観花隊募集後、メンバーは以下のとおり決定した。

隊長 今村量紀 副隊長 竹村浩
隊員 田島滉太 隊員 松本稔
隊員 本堂舞華 隊員 中田雅弘

6 月レスキュー、7 月登攀、8 月マルチピッチ、9 月乾徳山登攀と、本番に向け訓練を行なっている。

(国際委員長 今村)

2023 年岳連カレンダー制作と販売

8 月 16 日現在、23 名から 82 枚の写真素材が集まる。一般からの応募が多く、また質の高い作品が多い。2,000 部制作し、10 月理事会時に各会へ配布し、また販売を開始する予定である。

(カレンダー委員会 温井)

田部祭の開催

5 月 22 日、西沢溪谷の西沢山荘にて、第 5 回田部祭が山梨市観光協会三富支部主催、岳連後援で開催された。雨宮支部長による秩父山地を緑の溪谷美と表した田部氏の紹介を含む式典が行われたのち、パネル展示を鑑賞した。

(広報委員長 望月)



山梨市観光協会提供

寄稿 「2022 TJAR 完走」

2022 年 8 月 7 日 0:00 a.m. 富山県魚津市ミラージュランドをスタート。このラインに昨年に続き、再び立つことができました。昨年は台風直撃により途中で中止という結果になり、ここから僕の一年が始まりました。この間、家族の病気、事故などで諦めかけたこともありましたが、日本海を見て、戻って来られたことに涙が溢れてきました。

スタートして早月尾根までのロード区間で脚を早々に痛め、それからはマッサージを繰り返しながら進みました。北アルプス、中央アルプスと、友人や家族、白鳳会の皆さんの応援が心強く、自分 1 人じゃないという気持ちに常になっていました。

南アルプスの玄関口、市野瀬に着いたとき台風が発生して近づいてくるところを知り、「またか」と思いました。百間洞山の家あたりから風雨が強くなりだしました。深夜の聖岳越えは視界不良、寒さ、との闘い

でした。脚の痛みも強くなりここが一番辛く厳しい時でした。3:00 a.m. 脚をひきずりながら聖平小屋着。土砂降りの中シェルターを張り、中でお湯を作り脚を温めてマッサージをして仮眠をとりました。6:00 a.m. 脚はなんとか動かせるという状態でしたが、ここに留まってもリタイアしかないのでゆっくりでも進む決断をしました。

脚の痛み、台風の豪雨の中でも進むことができたのは「応援の力」です。南アルプス深南部、井川のロード、色んなところで応援の声をもらいゴールすることができました。日本海から太平洋、415 キロの挑戦は決して 1 人でできるものではなく、家族、友人、白鳳会の皆様など色んな方々に支えられてきたものだと思います。

6 日 17 時間 11 分、最高に楽しく、最高に辛い時間を過ごすことが出来ました。

皆さん本当にありがとうございました。

(白鳳会会員 井出善啓)

理事会の開催と主な内容

- 【2 月 2 日】SC 競技力強化協議会設立/日スポ協 SC コーチ 1 養成講習会/R4 年度主要事業日程
- 【3 月 2 日】「山梨県の安全」登山連携協定の締結予定/県スポーツ協会への免税寄附及び岳連 SC 特別会計の改編/岳連個人情報保護方針/岳連内資格取得者のとりまとめ
- 【4 月 6 日】R4 年度事業計画収支予算方針①レインジャー実施方針②JMCSA 補助のある登山事業③関東小中学生 SC 大会など特別事業予算④コロナ禍事業/SC 競技会支援スタッフ動員/旅費規程試行/JMCSA 対応保険の包括契約事業とりまとめ
- 【5 月 14 日】総会議題/役員(SC 担当副理事長)について/R4 県体育功労者、優秀選手表彰推薦/R4 年度県への要望/山岳レインジャー実施について/広河原インフォメーションセンター及び芦安観光案内所における安全登山指導業務
- 【6 月 1 日】6～10 月事業スタッフ状況/減遭難取組について/山梨百名山登山道調査事業
- 【7 月 6 日】高山植物保護に関する県との意見交換/南アルプス林道通行止めに関する県への要望/twitter 開設報告_岳連会員紹介の更新/岳連報作成連絡/関東小中学生 SC 競技会への他県スタッフ要請について
- 【8 月 3 日】8～10 月事業スタッフ状況/高山植物保護に関する県との意見交換/県体育祭り SC 競技会実施案について

スポンサー一覧 (順不同)

株式会社 早野組(甲府市東光寺)/エルク(甲府市徳行)/今井整形外科医院(甲府市上阿原町)/パイの家「エム・ワン」(北杜市大泉町)/芦安ファンクラブ(南アルプス市芦安)/そらのした(富士吉田市上吉田ほか)/金精軒(北杜市白州町)